

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成28年 7月25日更新

事務事業名	敬老事業実施等助成事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	健康福祉部	課長名 米澤伸仁
	施策	16	高齢者の自立と社会参加の促進		所属課	高齢者支援課	担当者名 樋口良平
施策の柱	47	高齢者の社会参加の促進		所属班	包括支援センター班	(内線) 2143	
予算科目	会計一般	款 3	項 1	目 4	事業連番 10436	根拠法令 合志市敬老事業実施補助金交付要綱	成果優先度評価結果 : ④ コスト削減優先度評価結果 : ⑨
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 27年度で終了 <input type="checkbox"/> 27年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	<p>○多年にわたり社会の発展に寄与して来られた高齢者を敬愛するための敬老事業を実施する行政区・施設に対して、その経費の一部を補助する。</p> <p>○平成14年度、行政主催の敬老祝賀会(式典方式)から敬老事業を実施する行政区等への補助金交付方式に変更した。※高齢者(参加対象者)が増加したため、弁当等の手配等で混乱を来たようになった。</p> <p>○平成19年度、補助金算定単位(人数加算)の対象年齢を70歳以上から75歳以上に上げた。※高齢者(対象者)が多くなった。</p> <p>○平成25年度、百歳敬老祝金贈呈事業及び金婚表彰事業を本事業へ統合。</p> <p>【補助金の算出】(1)定額補助(行政区のみ。1行政区あたり10,000円)と(2)人数加算(75歳以上の高齢者数に1人あたり700円を乗じた額)の合計額。※敬老事業に要した実支出額が少ない場合は、その額。</p>
【業務の流れ】	<p>【敬老事業】</p> <p>①住民登録から行政区毎の75歳以上人口を把握 ②区長・施設長に補助金交付申請書を送付 ③申請に対して補助金交付決定通知書を送付 ④敬老事業実施後提出された実績報告書を審査</p> <p>⑤補助金の支払い</p> <p>【金婚表彰事業】</p> <p>①当該年度の金婚夫婦該当者を把握するため、区長便により申請依頼 ②金婚夫婦表彰伝達式(例年9月)の案内</p> <p>【百歳敬老祝金贈呈事業】</p> <p>①当該年度の百歳高齢者を調査・把握 ②誕生日に訪問し、お祝いメッセージ・祝金の贈呈</p>
【主な予算費目】	報償費、需用費、負担金補助及び交付金(補助金)
【意見や要望】	特になし

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
①手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動)(DO)	28年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
合志市敬老事業実施補助金の交付	敬老事業実施補助金の交付、金婚夫婦の表彰、百歳祝金の贈呈、内閣総理大臣表彰の伝達
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 補助金交付申請団体数	件 百歳到達者の減
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
多年にわたり社会の発展に寄与して来られた高齢者	(単位) 人
	→ ア: 75歳以上の高齢者
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
高齢者を祝う	(単位) 人
	→ ア: 敬老事業への参加者数
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠	
意図が高齢者を祝うため、高齢者が敬老会等に参加することによって、多くの方から祝ってもらえるので、敬老事業への参加者数とした。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2)各指標・総事業費の推移	単位	25年度	26年度	27年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
①活動指標	件	65	77	77	78	78	78	78	78
②対象指標	人	5,886	6,004	6,256	6,184	6,441	6,626	6,811	6,996
③成果指標	人	4,475	4,200	4,200	3,907	4,200	4,200	4,200	4,200
投資入費量	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円							
	繰入金	千円							
	一般財源	千円	6,671	6,537	7,545	7,050	7,446	7,351	
	(A)事業費計	千円	6,671	6,537	7,545	7,050	7,446	7,351	0
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
	(A)のうち時間外、特費	千円	0	0	0	0	0	0	0
	正規職員従事人数	人	5	0	6	0	6	6	0
延べ業務時間	時間	480	0	360	0	360	360	0	
(B)人件費計	千円	1,912	0	1,434	0	1,434	1,434	0	
トータルコスト(A)+(B)	千円	8,583	6,537	8,979	7,050	8,880	8,785	0	

事務事業名	敬老事業実施等助成事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	-------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は27年度の後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②28年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 参加対象高齢者数が増加するため、参加者数も増加すると思われる。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 75歳以上の高齢者数は増加しているが、全員が敬老事業へ参加できるものではないため参加者数が大きく伸びる見込みはない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 人数加算における75歳以上の高齢者数は今後も増加すると考えられる。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 補助金交付事務に係る必要最少の業務時間数である
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 老人福祉法第13条第2項 (老人福祉の増進のための事業) において、「地方公共団体は、老人の福祉を増進することを目的とする事業の進行を図るとともに、当該事業を行うものに対して、適当な援助をするように努めなければならない」と位置づけられている。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 上記の法に基づき、高齢者に敬意を表す事業への補助金交付事務は、市が行なわなければならない事務である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

高齢者の方には、身近な地域の中で祝福を受けることで、生きがいを感じ、健康で長生きの意識の向上が図られたと思います。また、地域で敬老事業を実施することにより、市民の高齢者に対する敬老意識の向上も図られたと思います。敬老事業の地域における実施体制も定着しており、現行での維持が望ましいと考えます。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						